

# 犠牲者非難と 人権感覚のアンテナ



現代社会にはさまざま  
な人権問題がありますが、  
それらを「知らない」「見  
ない」「考えない」ことは、  
偏見や差別、人権侵害を生  
み出します。日常での「何  
気ない」「悪気ない」意識  
や行動が、人をおとしめ、  
苦しめる可能性があるの  
です。

たとえば、「いじめめる側  
が悪い」と言いながらも、

いじめられる側には「あな  
たがしっかりしないから」  
「テキパキしないから」  
「もつとがんばれ」「努力  
しろ」と言う人がいます。  
差別を受けた人に対して  
も、「差別された側にも責  
任がある」と言う人がいま  
す。

このような、問題の原因  
が被害者にあるとする考  
え方を「犠牲者非難」とい  
います。加害者がいなか  
れば、被害者は生まれませ  
ん。この当たり前のことを歪  
めてしまうのが、犠牲者非  
難なのです。

犠牲者非難は、被害者を  
精神的に追い詰めます。被  
害者は最初の被害による  
苦しみに加え、二重で苦し  
むこととなります。

この犠牲者非難は、多く  
の差別、人権侵害でよく見



受けられます。では、どう  
して犠牲者非難が生まれ  
るのでしょうか？

人は問題に直面したと  
き、どうしても自分を安全  
な立場に置き、上から目線  
の言葉を言ってしまうが  
ちです。これは心理的な働  
きによるもので、整理のつ  
かない居心地の悪さや気  
持ち悪さを、何とかして解  
消しようとするためです。

「〇〇するから差別さ  
れるのだ」「〇〇だから差  
別されても仕方ない」とい  
う犠牲者非難も、このよう  
な心理的働きによるもの  
です。非常に短絡的に、間  
違った答えを導いてしま  
う心理的メカニズムが働

きます。

私たちは、偏見や差別、  
人権侵害に苦しむ人を、  
「何気なく」「悪気なく」  
追い詰めているかもしれ  
ないことに気づかなけれ  
ばなりません。「関係ない」  
という周囲の無関心さが  
問題なのです。

必要なのは、「人権感覚  
（人権侵害や差別をキャ  
ッチする感覚、感性）のア  
ンテナ」を張ることです。  
人権感覚のアンテナはだ  
れもが持っているもので  
すが、なかには持っている  
ことに気づいていない人  
もいます。



これまで知らなかった  
ことを知りましょう。これ  
まで見なかったことを見  
ましょう。これまで考えな  
かったことを考えましょ  
う。人権感覚のアンテナを  
張り巡らすことで、人と人  
は豊かにつながることで  
できます。

「参考」人権感覚のアンテ  
ナって？（部落解放・人権  
研究所、人権啓発ビデオ作  
製委員会）



まずは私たちの日常の意識と行動を見直すことから始めませんか？

問 教育委員会事務局

人権・同和教育係

☎ 0943・32・0093

(内線313)

